

1. 略歴

- 平成4年3月 京都大学文学部文学科卒業（文学士）
平成4年4月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻入学
平成6年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻修了（文学修士）
平成6年4月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程梵語学梵文学専攻進学
平成12年3月 京都大学大学院文学研究科梵語学梵文学専攻博士後期課程中途退学
平成8年9月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程入学
平成12年12月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程卒業（Ph.D）
平成12年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 COE 非常勤研究員（平成13年3月まで）
平成13年4月 白鷗大学経営学部専任講師（平成17年3月まで）
平成17年4月 白鷗大学経営学部助教授（平成19年3月まで）
平成19年4月 白鷗大学教育学部准教授（平成22年3月まで）
平成22年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

歴史言語学、音韻論、インド・アリア語、ドラヴィダ語

b 研究課題

インド・アリア語、とくにサンスクリットの音韻論と、ドラヴィダ語族言語のフィールドワーク

c 主要業績

(1) 著書

単著、Masato Kobayashi, 『Texts and Grammar of Malto』、Kotoba Books、2012.3

編著、HAYASI Toru, KOBAYASHI Masato, NISHIMURA Yoshiki, 『Tokyo University Linguistic Papers 33: Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto』、Linguistics Department, University of Tokyo、2013.3

その他、Masato Kobayashi, 『"Information Structure and the Particles vai and eva in Vedic Prose", in Klein, Jared and Kazuhiko Yoshida (eds.), Indic across the Millennia, 77-92』、Ute Hempen Verlag, Bremen、2013.4

(2) 論文

Masato Kobayashi, 「The Stative Passive Construction in Kurux」、『Tokyo University Linguistic Papers 33 (Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto)』、33、117-131 頁、2013.3

(3) 書評

Lipp, Reiner, 『Die indogermanischen und einzelsprachlichen Palatale im Indoiranischen』、Carl Winter, Masato Kobayashi, 『Indo-Iranian Journal』、55.3、287-296 頁、2012

(4) 学会発表

国内、小林正人、「マルト語の副動詞における冗長な活用の発生」、日本言語学会 第144回大会、東京外国語大学、2012.6.16

(5) 受賞

国内、小林正人、Masato Kobayashi、第31回新村出賞、31st Izuru Shinmura Award、「Texts and Grammar of Malto (マルト語のテキストと文法)」、新村出記念財団、Izuru Shinmura Memorial Foundation、2012.11.23

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本言語学会 大会運営委員 2008年～2010年、常任委員 2012～

(2) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所運営委員 2013～

日本学術振興会審査委員 2013～